THE ROTARY CLUB OF KARIYA

Weekly

創立　1954年３月８日
承認　1954年３月30日

例会日時　毎週月曜日
12：30～13：30
例会場　刈谷市新栄町３の26
刈谷商工会議所内
事務所　TEL〈0566〉22-2111
FAX〈0566〉25-2111
メール　kariyarc@katch.ne.jp
ホームページ　http://www.kariya-rotary.com
会長　鈴木　豊
幹事　小川　耕示
会報委員長　丹羽　克誌

2013～2014年度　国際ロータリー　ロンD.バートン 会長テーマ
Engage Rotary Change Lives　ロータリーを実践し　みんなに豊かな人生を

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第2844回例会プログラム

［当年度＝36回目；当月＝４週目］

2014年（平成26年）５月26日(月)

1．例会……〈司会：プログラム委員会〉

12：28　1．チャイム
12：30　2．点　鐘……〈会　長〉
3．開会宣言
4．ロータリーソング斉唱……日も風も星も
5．講師・ゲスト並びにビジター紹介
6．食　事

12：45　7．会長挨拶並びに会長報告
8．小堤西池のカキツバタを守る会へ支援金贈呈
……カキツバタを守る会
会長　近藤（こんどう）　光雄（みつお）　様
9．新入会員挨拶……小野（おの）　雄司（ゆうじ）　会員
10．退会会員挨拶……山本（やまもと）　伸治（しんじ）　会員
11．幹事報告
12．出席報告
13．委員会報告
14．ニコニコボックス報告
15．次週並びに次々週のプログラムの予告
（６／２）……
新入会員アワー　豊田　浩正　会員
〃　内藤　昇　会員
（６／９）……
卓話　「千石船漂流記」
講師　日本漂着物学会
中小企業技術経営研究会会長
水野　克宣　様
（紹介者　天野　櫻子　会員）

2．クラブフォーラム……〈環境保全委員会〉

13：00　卓話　「企業に期待される生物多様性」
講師　地区環境保全委員会
委員長　高橋　豊彦　様
（紹介者　酒部　正博　会員）

16．謝　辞
17．点　鐘……〈会　長〉
18．閉会宣言

13：30　19．散　会

ゲ　ス　ト

カキツバタを守る会　会長　　近藤　光雄 様

出　　席

会員総数　95名　　出席免除　25名
出席義務者＋免除者の内例会出席者　86名
欠　席　11名　　出席率　87.21％
前々回（５／12）の修正出席率 100％

会　長　報　告

1）地区環境保全委員会より亀城小学校のビオトープ事業の表彰状と盾を頂きました。
2）刈谷音楽協会より創立10周年にあたり感謝状を頂きました。
3）ポールハリスフェローのバッヂを黒田義之会員にマルチプル２回目、深谷嘉英会員、杉浦芳一会員にマルチプル１回目が届いておりますのでお渡しします。
4）５月22日開催された刈谷市国際交流協会の役員・幹事会に参加してまいりました。
5）５月23日開催された刈谷市社会福祉協議会の理事会に参加してまいりました。

幹　事　報　告

1）本日例会終了後、事務局にて理事会を開催しますので、ご関係の方はお集まり下さい。
2）先回の例会でご案内しました６月22日に開催される刈谷音楽祭のチケットを１枚900円で販売します。本日例会終了後ロビーにてお買い求め下さい。
3）日本ロータリー親睦ゴルフ北海道大会が６月23日に開催されます。参加希望の方は事務局を通じて申し込み下さい。
4）小野雄司会員の入会により、会員数は95名となりました。小野会員は親睦活動委員会への配属となります。

会長あいさつ

「チャレンジして失敗を恐れるよりも、チャレンジしないことを恐れろ」

鈴木　　豊

これは日本のものづくりを代表する本田技研工業の創業者、本田宗一郎氏の言葉です。

昭和39年当時、四輪車は軽トラックしか製造していなかった同社がF1に参戦を決定したときの言葉と言われます。「日本の弱小メーカーが世界最高峰のF1にチャレンジしても歯が立つはずがない」と言われる中、参戦からわずか１年後のメキシコGPで見事に優勝を果たしました。それを支えたのが本田技研のチャレンジ精神だったのです。

自らを技術者と決め「失敗が人間を成長させると、私は考えている。失敗のない人なんて、本当に気の毒と思う」と語る氏の言葉は、同じ産業界に携わる人々の大きな励みとなり、勇気となったのです。

最近の若い社員は、言われた仕事は起用にこなすが、自ら率先して取り組もうという人が少なくなっています。これは、私の会社だけでなく多くの企業でも見られるようです。自ら、積極的にチャレンジする人は一握りしかいないのが現状。経営コンサルタントに「誰がこんな世の中にしてしまったのでしょうか」とお聞きしたら「あなた自身ですよ」と苦笑まじりの答えが返ってきました。

社員は、マニュアルや規則に縛られ、また組織の上からも「失敗が許されない」環境に置かれているのです。がんじがらめに縛っておいて、チャレンジしなさいと言っても所詮無理があるのではないでしょうか。

まず私から「チャレンジしないことを恐れなければならない」のです。チャレンジすれば、成功することも可能です。失敗しても、何かを学べます。しかし「何もしなければ、何も得ることができない」ことを改めて痛感しています。それにしても、当社の「安易な失敗の多いこと。安易な失敗をしないよう注意すること」が、先決かも知れませんが…。

新入会員あいさつ

氏　　名	小野　雄司
生年月日	昭和26年12月12日
推　薦　者	室殿　豊 会員
職業分類	老人ホーム
事業所名	㈱博愛ナーシングヴィラ
役　職　名	取締役
所属委員会	親睦活動委員会

退会会員あいさつ

山本　伸治 会員

卓　　話

「企業に期待される生物多様性」

地区環境保全委員会
委員長　高橋　豊彦 様

「企業に期待される…」というところで２つの意味があると思います。

１つ目は、「企業には、人を育てる力がある」、２つ目は、「企業には、経済的かつ空間的な資産を持っている」ということです。環境問題というものは、人間が考える以上、ひとの気持というものが大きく左右されますのでそういう意味でも、企業の役割というものはこれからもっと大きくなっていくはずです。

愛知県は、愛地球博に始まり、COP10、そして2014年に行われますユネスコESD国際会議と世界でも注目されるような大きな事業があり、かつ環境に対する意識も高い地域の１つであります。

そういう状況の中、２つのキーワードがこれから注目

されて行くことになります。１つは、生態系ネットワーク、２つ目は代償ミティゲーションという考え方です。

生態系ネットワークとは、種固有の移動可能距離を考えたとき現状の自然環境では生態系が分断されているところが数多くあります。これを、ポテンシャルマップという手法を用いて分断された生態系をつなぐことによって生物多様性を担保するという手法です。

この時に、分断された空間に該当する行政保有の土地（学校・公園など）や企業保有の土地を活用し、食物連鎖を意識していきながら環境づくりをしていくことによって、特に市街地での生物の多様性が大きく高まることが期待されます。

また、土地開発による既存の環境が損なう場合も少なくありません、当然、経済活動も大切なので、両者の両立ということができれば非常に良いということになります。そのための考え方が、代償ミティゲーションということになります。失われた部分の同等、もしくは一定割合の生態系環境を空間的に再生補償するということを、事業者に求めることによって生物多様性を大きく損なうことなく自然環境の保全につながるという考え方です。